

# 中央図書館開館25周年記念事業

早稲田大学図書館の歴史は、大学が東京専門学校として創立され、その建物の一部に図書室が設置される1882年に始まる。1902年に東京専門学校が早稲田大学と名称を変更し、大学として組織の整備がすすめられるなかで「図書室」は初めて独立した施設を持つに至り、「早稲田大学図書館」は新たなスタートをきることとなった。

そして1991年、「総合学術情報センター」の一部として現在の中央図書館が開館した。2016年は開館25周年という節目の年にあたり、これを記念して、図書館に蓄積されてきた資料や研究成果を広く学内外に発信すること、利用者へのサービスを向上させることを目的に記念事業

を実施した。

実施にあたっては、ワーキンググループのメンバーを図書館職員から公募によって募り、土台となる事業計画案を策定した。それを基に、図書館管理職の会議において費用、効果などについて検討して事業を確定、その後、事業別に実施メンバーを募り実行した。

## 早稲田大学中央図書館 開館25周年記念事業ウェブサイト

<https://www.waseda.jp/library/libraries/central/central25th/>

## 中央図書館開館25周年記念事業一覧

### ■ イベント

企画名	開催日時	会場
講演会 「私と図書館」	2016年10月21日 15:00～16:30	早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール
シンポジウム 「日本における学術出版社と 図書館の役割、その未来」	2016年12月12日 14:00～16:30	早稲田大学 大隈記念講堂 小講堂

### ■ 記念展示

展覧会名	会期	会場
写真展 「図書館今昔」	①2016年10月3日～ 10月31日 ②2016年12月12日	①早稲田大学中央図書館2階 エントランスホール ②早稲田大学大隈記念講堂 小講堂
中央図書館開館25周年記念展示 第1期「図書館所蔵の国宝・重要文化財」	2017年3月17日～ 2017年4月5日	早稲田大学 総合学術情報センター 2階展示室
中央図書館開館25周年記念展示 第2期「日本の古籍を中心に」	2017年4月10日～ 2017年4月27日	早稲田大学 総合学術情報センター 2階展示室
中央図書館開館25周年記念展示 第3期「海を越えてきたもの」	2017年5月10日～ 2017年6月2日	早稲田大学 総合学術情報センター 2階展示室

### ■ ノベルティグッズ

ノベルティグッズ名
特製クリアファイル 「早稲田大学図書館今昔」
特製クリアファイル 「素石歳旦・読書猪図」
特製クリアファイル 「南総里見八犬伝」
特製クリアファイル 「Myrrour of the Blessed Lyf of Jesu Christ」
本の防水バッグ(手提げバッグ)
本の防水バッグ(ZIPつきバッグ)

### ■ VR(バーチャルリアリティ)コンテンツ制作プロジェクト

種別	コンテンツ、グッズ、企画名
VRコンテンツ	「BOOKS IN WONDERLAND ～空間の旅～」 (中央図書館地下自動書庫360° VR映像)
VRコンテンツ	「『敦盛絵巻』～敦盛ジュニア(こあつもり)の半生を追う～」 (日本語版・英語版) (中央図書館 所蔵資料 360° VR×3D映像)
VRコンテンツ	「『四季源氏』～優美な貴族の世界～」(日本語版・英語版) (中央図書館 所蔵資料 360° VR×3D映像)
ノベルティグッズ	早稲田大学図書館オリジナルVRビューワ
イベント	VRビューワ体験・無料配布イベント (2016年10月3日～7日、10月21日、12月12日)

## 1 講演会「私と図書館」 (2016年10月21日)

「図書館」をより身近なものに感じて欲しい、という思いから、講演会「私と図書館」を開催した。中央図書館開館25周年記念事業であると同時に、早稲田大学文化芸術週間2016のイベントとしても位置付け、早稲田大学の創立記念日である10月21日に開催した。

登壇者については、文学学院の教員として教鞭をとる傍ら、芥川賞作家として著名な堀江敏幸教授にコーディネートと出演を依頼。また、最年少で芥川賞を受賞し、現在でも若い世代に大きな影響を与え続けている教育学部出身の作家、綿矢りさ氏の出演が叶った。在学生と近い世代の作家の視点から語る綿矢氏のトーク、そして芥川賞作家同士の対談にも注目が集まり、会場は550名の観客の熱気に包まれた。



講演会「私と図書館」

## 2 シンポジウム「日本における学術出版社と図書館の役割、その未来」 (2016年12月12日)

本シンポジウムは、学術情報流通の変化に対して「出版」という焦点をあてて、この視点からあらためて議論することを企図したものである。

議論に先立って、ミシガン大学大学院図書館日本学研究司書の横田カーター啓子氏、東京大学出版会営業局長の橋元博樹氏の両名より、基調講演をいただいた。これらの基調講演を受け、岩波書店新書編集部編集長の永沼浩一氏、教育・総合科学学術院の和田敦彦教授を加え、



シンポジウム「日本における学術出版社と図書館の役割、その未来」

パネルディスカッションを行った。ディスカッションのファシリテーターは、図書館事務部長の荘司雅之が務めた。

当日は約150名の来場者を迎え、その内訳は出版関係者4割、大学図書館関係者4割であった。企画意図に沿って、幅広い議論が行われた会となった。

## 3 写真展「図書館今昔」 (2016年10月3日～10月31日、12月12日)

早稲田大学図書館の歴史を、記録写真で振り返る機会として、パネル展示を開催した。明治15(1882)年、東京専門学校開校当時の図書室から、2号館に所在した旧図書館、そして中央図書館の開館と、その後の25年間の図書館サービスの展開まで、時代を超えて続く図書館の歩みを、「I 東京専門学校図書室時代」「II 早稲田大学図書館への発展」「III 中央図書館の建設」「IV ライブラリーウィーク今昔」「V 中央図書館開館25周年記念事業」の5つの時代区分で展示した。



写真展「図書館今昔」

## 4 中央図書館開館25周年記念展示

中央図書館開館以来、四半世紀が過ぎた。図書館ではこの間、新たに館蔵資料の画像公開事業を開始し、直に目にする機会の限られる貴重資料を、画像を通じて学内外の研究・教育に提供しつつ、原資料の保存を図ってきた。その一方で、貴重資料そのものが観たいとの声も少なからず寄せられていたが、様々な制約から長らく展観に付することができなかった。そこで、開館25周年記念事業として館蔵資料の展示を行うにあたり、国宝・重要文化財を含めた“名品”と、開館後新たに収蔵したものの中から選りす



改修された展示室

ぐりの資料を出陳した。

また、同事業の一環として、総合学術情報センター2階展示室を改修したことから、装いも新たな図書館展示室で、図書館伝来の貴重な資料の数々を堪能いただける機会となった。

### ■ 第1期「図書館所蔵の国宝・重要文化財」

(2017年3月17日～ 2017年4月5日)

卒業式・入学式に合わせ、国宝2点、重要文化財5件を一堂に集めて展示した。このうち国宝の展示は、およそ10年ぶりのこととなった。



第1期「図書館所蔵の国宝・重要文化財」

### ■ 第2期「日本の古籍を中心に」

(2017年4月10日～ 2017年4月27日)

和書を中心に資料選定した。25周年記念事業として制作したVRコンテンツに使用されている『敦盛絵巻』、『源氏物語絵巻：四季源氏』も出陳することで、“リアル”な原本とデジタル化されたものとの両極をご覧いただける機会となる。



第2期「日本の古籍を中心に」

### ■ 第3期「海を越えてきたもの」

(2017年5月10日～ 2017年6月2日)

漢籍、準漢籍、洋書ほか、海外文化の香りを帯びた資料を選定して展示。

## 5 特製クリアファイル

中央図書館所蔵の資料や新旧の図書館写真をモチーフにした、中央図書館開館25周年記念特製クリアファイル全4種を作成し、25周年記念事業の各種イベントや、図

書館の新入生歓迎イベント「Library Week」で配布。学内外から好評を得たため、大隈講堂前の125ショップ、および生協ライフセンターでも一般向けに販売中。

### ■ 早稲田大学図書館今昔

表面に現在の中央図書館を、裏面には1925年に開館した旧図書館(現在の高田早苗記念研究図書館)および早稲田大学校歌(相馬御風 作並書)の写真を配したデザイン。



特製クリアファイル「早稲田大学図書館今昔」

### ■ 素石歳旦・読書猪図

館蔵資料より、幕府の御用左官でもあった俳人為山(本名 関永蔵、1804-1878)などによる猪歳の明治8年(1875年)年賀の俳諧摺り物からデザインした。



特製クリアファイル「素石歳旦・読書猪図」

### ■ 南総里見八犬伝

館蔵資料『南総里見八犬伝』第1輯、第9輯からさまざまな犬の挿絵を抜粋。裏面には、連載中に両眼を失明した



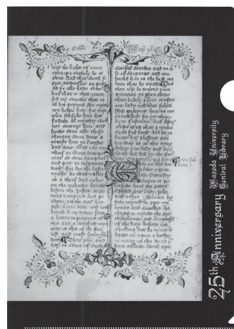
特製クリアファイル「南総里見八犬伝」



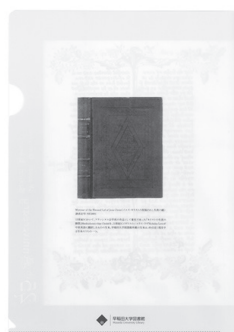
曲亭馬琴(1767-1848)の直筆から、亡き息子宗伯の妻・路の筆へと切り替わる第9輯草稿部分を掲載した。

### ■ Myrrour of the Blessed Lyf of Jesu Christ

館蔵資料より、13世紀において、フランシスコ会学派の作品として著名であった『キリストの生涯の瞑想』Meditationes vitae Christiを、15世紀にイギリスのニコラス・ラヴ Nicholas Loveが中世英語に翻訳したものの写本をデザインした。



表



裏

特製クリアファイル  
「Myrrour of the Blessed Lyf of Jesu Christ」

ナレーションも作成し、広く世界に早稲田大学図書館の資料を体験いただけるようにした。また、コンテンツだけでなく、早稲田大学特製VRゴーグルをノベルティとして製作した。



VRゴーグル配布セット

制作にあたっては、理工学術院教授、河合隆史先生に全面的なご支援をいただき、実際のコンテンツとVRゴーグル制作を、河合研究室出身の太田啓路氏が代表を務める株式会社リ・インベンションが担当した。

## 6 本の防水バッグ

雨天の日でも図書館資料を濡らさずに持ち帰っていただけるよう、ビニール製の防水バッグを作成し、中央図書館や一部のキャンパス図書館で無料配布した。手提げ型の形状と、ジッパーがついたZIPタイプの2種類を作成し、後者については特に雨天の日に配布した。



本の防水バッグ(手提げタイプ)

## 7 VR(バーチャルリアリティ)コンテンツ制作プロジェクト

図書館の施設や貴重な古典籍資料を360° VRコンテンツとして制作した。制作したコンテンツは、中央図書館の地下自動書庫で稼働する出納ロボットを体験する「BOOKS IN WONDERLAND ~空間の旅~」と、『敦盛絵巻』、『四季源氏』の2点の古典籍資料の計3点である。制作したコンテンツはインターネットを通じて全世界に公開し、VRゴーグルや対応ブラウザで体験・閲覧できるようにした。また、古典籍資料2点については英語版の

### 中央図書館開館25周年記念VR制作委員会

#### 制作

- 早稲田大学図書館
- 河合隆史(早稲田大学理工学術院教授)
- 株式会社リ・インベンション

#### 協力

- 早稲田大学基幹理工学部 河合研究室

#### ナレーション

- 山本 正子
- ローリー ゲイ(早稲田大学図書館副館長)

Library Week(10月3日～7日)、25周年記念講演会(10月21日)、25周年記念シンポジウム(12月12日)においてVRビューアー体験会や無料配布イベントを行い、大変な盛況となった。



10月21日のVRビューアー体験会